

2019年度 スポーツ栄養学部門活動報告

スポーツ栄養学部門 部長 金子嘉徳
副部長 香川雅春

2019年度のスポーツ栄養学部門に所属する専任および兼任所員の業績は以下の通りである：

1) 外部資金獲得

大沼久美子教授（実践養護学研究室）

2018年に「ヒヤリ・ハット事例を活かしたアクティブラーニング型アレルギーリテラシー教育の開発」で基盤研究Cに採択され、継続している。

2) 研究活動

スポーツ栄養学部門に所属している専任および兼任所員が2019年度に実施した研究活動は以下の通りである：

金子嘉徳部長・教授（実践運動方法学研究室）

- ・2014年より東都大学野球一部リーグの國學院大學野球部、並びにユニバーシアードに常時出場し全日本学生体重別団体優勝大会で上位入賞している同大学柔道部への補食指導などの栄養サポートを2019年度も学部学生が中心となり継続し、運動前後の補食について検討している。
- ・2002年より年2期実施している近隣の中高齢者を対象とした運動と食事を組み合わせた運動教室は、2019年度で33期となり、各回平均130名が参加している。ここでは、ポピュレーションアプローチとしてのフレイル予防について検討している。この成果は、栃木県の健康づくり運動指導講座、鶴ヶ島市「元気なまちづくりリーダー」養成講座、越生町「運動サポーター」養成講座等に活かされている。
- ・2016年2月よりパラオ共和国の保健省等と協働して、パラオの高齢者体力を測定し、その体力に対応したパラオのダンス要素を取り入れた座位での健康体操DVDを制作し、現地指導者に配布し普及している。
- ・運動を継続的に行うには身近な公園が重要であることに着目し、国内外の健康遊具が設置されている公園について研究してきた。これら研究成果は、運動関連学会誌への掲載、地域の健康づくり施設の参考資料となっている。また、映像がブレを生じないスタビライザーカメラで公園内等を撮影した動画を作成し、その映像を安全で気候に左右されない室内ウォーキングの指導方法として、坂戸市、鶴ヶ島市等の健康づくり講習会で活用している。2019年度は、8月に台湾・台北

市内「青年公園」、9月に米国ニューヨーク市内「セントラルパーク」にて運動実施実態調査とウォーキング指導に利用する公園内の動画撮影を行った。結果については、日本体操学会、日本ウォーキング学会で報告する予定である。

香川雅春副部長・准教授（栄養科学研究所）

- ・2014年度から参加しているJAXAや理化学研究所などとの共同研究の成果の取りまとめが継続され、研究成果の一部が第42回日本分子生物学会で発表された。
- ・2014年度から大沼久美子教授（実践看護学研究室）および鞠子佳香専任講師（実践運動方法学研究室）と共同研究として行っている埼玉県内の高校ラグビー部員を対象にした保健指導・栄養サポート活動を継続し、怪我予防に向けた身体作りに対する研究を行った。この活動の一部を卒業研究および日本スポーツ栄養学会第6回大会で発表した。
- ・2015年度に若手研究（B）として採択された研究「女性の身体不満を誘発する要因についての包括的検証：日本・マレーシアの比較から」の研究成果の一部をアジア栄養学会（Asian Congress of Nutrition 2019: ACN2019）で発表した。
- ・2017年度から継続されている東洋大学によるオリンピック・パラリンピック特別プロジェクトに引き続き参加し、その研究成果を51st Asia Pacific Academic Consortium for Public Health（APACPH：アジア太平洋公衆衛生学術連合）の国際学術会議を含む3つの学会で発表した。また香川副部長がAPACPHで発表した研究は優秀口頭発表賞（Excellent Oral Presentation Award）を受賞した。
- ・複数の外部機関からの要請を受け、学内外の国際身体計測技師および興味を持つ本学学生による計測チームを編成し、大学ラグビーチームや専門学校のバスケットボールチーム、サッカーチーム、そして高校野球チームなど複数の競技団体に対して身体計測を実施した。
- ・2018年度からコアメンバーとして参加している学会主導のプロジェクトに2019年度も継続して参加し、複数の競技種目の選手に対する身体計測を実施した。

上西一弘教授（栄養生理学研究室）は、石田裕美教授（給食・栄養管理研究室）、小林正子教授（発育健康学研究室）とともに「成長期のライフスタイルと身体状況に関する研究」を継続中で、中学生・高校生の食事、運動、睡眠などと、身長、体重、体組成、骨量などとの関係を縦断的に検討している。

大沼久美子教授（実践看護学研究室）は香川副部長（栄養科学研究所）と鞠子佳香専任講師（実践運動方法学研究室）との共同研究として、2014年度から行っている埼玉県内の高校ラグビー部員を対象にした保健指導・栄養サポート活動を継続し、怪我予防に向けた身体作りに対する研究を行った。この活動の一部は卒業研究および栄養科学専攻の実習として、学生の教育活動にも活かされた。

山下俊一教授（応用生理学研究室）は2018年度より香川栄養学園保健センター所長として、学生の学修やスポーツに支障をきたす不整脈や食物アレルギー等の健康情報を、必要とする科目担当者

と安全・迅速に共有できるシステムを研究開発している。

小林正子教授（発育健康学研究室）は、第30回日本成長学会学術集会を大会長として2019年11月16日に女子栄養大学駒込校舎で開催した。

2019年中に本部門に所属する専任・兼任所員によって発表された論文は以下の通りである（五十音順）：

学術論文：

香川雅春副部長・准教授

- ・香川雅春と岩本紗由美. 身体計測. エッセンシャルスポーツ栄養学. (監) 日本スポーツ栄養学会, (編) 高田和子, 海老久美子, 木村典代. 市村出版, pp. 37-49, 2020.
- ・ **Kagawa M.** and Hills AP. 2020. Preoccupation with body weight and under-reporting of energy intake in female Japanese nutrition students. *Nutrients*. **12** (3). 830. doi.org/10.3390/nu12030830.
- ・ Chin Y S, Appukutty M, **Kagawa M**, Gan W Y, Wong J E, Poh B K, Mohd Shariff Z, Mohd Taib M N. 2020. Comparison of factors associated with disordered eating between male and female Malaysian university students. *Nutrients*. **12** (2). 318. [doi: 10.3390/nu12020318](https://doi.org/10.3390/nu12020318).
- ・岩本紗由美, 高田和子, 太田千尋, 二神 幹, 平松 航, Hume, P., 香川雅春. 2019. コンディショニングにおけるモニタリング指標としての皮下脂肪厚計測活用事例の報告. 日本アスレティックトレーニング学会誌. **5** (1): 53-61.
- ・ Matsuda C, Kato T, Inoue-Suzuki S, Kikuchi J, Ohta T, **Kagawa M**, Hattori M, Kobayashi H, Shiba D, Shirakawa M, Mizuno H, Furukawa S, Mukai C, Ohno H. 2019. Dietary intervention of mice using an improved Multiple Artificial-gravity Research System (MARS) under artificial 1 g. *NPJ Microgravity*. **5**: 16. [doi: 10.1038/s41526-019-0077-0](https://doi.org/10.1038/s41526-019-0077-0).

3) 社会貢献

金子嘉徳部長・教授

- ・日本体操学会でフレイル予防の運動と栄養を組み合わせた健康づくり研究を全国に推奨している。
- ・埼玉県坂戸市の「坂戸市健康なまちづくり審議会」会長として坂戸市の健康づくり全般に関わり、「2018年度第2次坂戸市健康なまちづくり計画中間年次改訂版」をまとめ、2019年は、この計画を踏まえての事業取り組みを共有し、評価指標を検討することとした。
- ・埼玉県越生町では2014年に創設した「介護予防運動指導員養成講座」、2017年度より、鶴ヶ島市の健康増進委託事業「元気なまちづくりリーダー養成講座」を継続している。
- ・第29回女子栄養大学栄養科学研究所講演会「オリンピック・パラリンピックの食の現場における課題」の座長として関わった（2019年10月）。

香川雅春副部長・准教授

- ・身体計測の標準化を行い、現在健康・スポーツ医科学領域における身体計測の国際基準を制定している国際キンアンソロポメトリー推進学会 (International Society for the Advancement of Kinanthropometry: ISAK) から日本人として最初のレベル3 (インストラクター) 国際身体計測技師として認定を受けてから、約20年にわたり国内外で身体計測の手技を指導している業績が認められ、レベル4 (Criterion: 基準者) として認定を受けた。2020年4月現在にレベル4の認定を受けている国際身体計測技師は、香川雅春副部長・准教授を含めて世界に16名のみである。また2019年度も本学在校生および学外からの希望者を対象に、ISAKからの承認を得て計3回 (坂戸キャンパス: 1回, 駒込キャンパス: 1回, 学外: 1回) の国際身体計測技師認定コースを開催した。さらに (公社) 日本栄養士会と (公財) 日本スポーツ協会共同で認定している公認スポーツ栄養士養成講座で身体計測および身体組成に関する指導を行った (2019年12月)。
- ・大沼久美子教授 (実践養護学研究室) および鞠子佳香専任講師 (実践運動方法学研究室) と共同で保健指導・栄養サポート活動を実施した高校ラグビー部が、第99回全国高等学校ラグビーフットボール大会への出場を果たした。
- ・タイ・バンコクにあるThe College of Medicine, Rangsit Universityの医学部に在籍している4～6年生約150名と教員を対象に「Body image and Health (ボディ・イメージと健康)」のタイトルで特別講演を行った (2019年11月)。
- ・宮崎放送ラジオ局 (MRT) の番組「PERSONS」に2回出演し、身体計測と高校生の栄養、そしてオーストラリアの高校生活について紹介した (2020年1月)。

以上